

性感染症について

【性感染症とは】

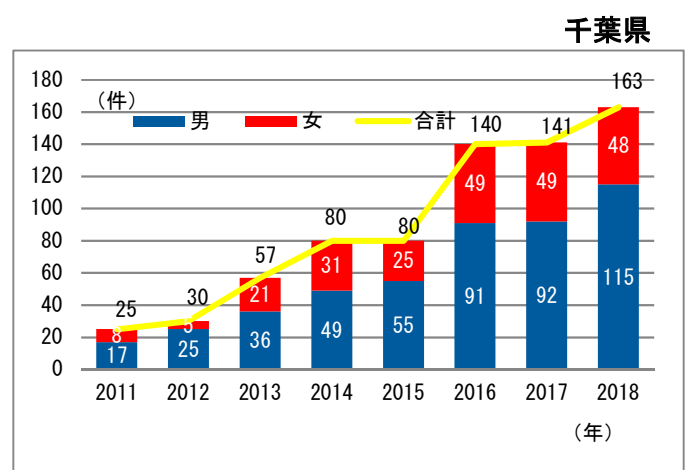
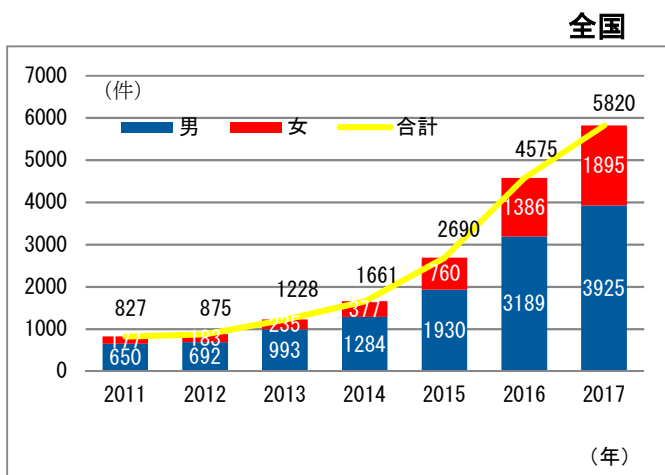
性感染症の特定感染症予防指針では、性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、梅毒及び淋菌感染症を指している。

そのうち、梅毒は診断した全ての医師が、全ての患者の発生について届出を行う感染症（全数報告）であり、他は性感染症定点医療機関（県内43）が月単位で届出を行う感染症である。

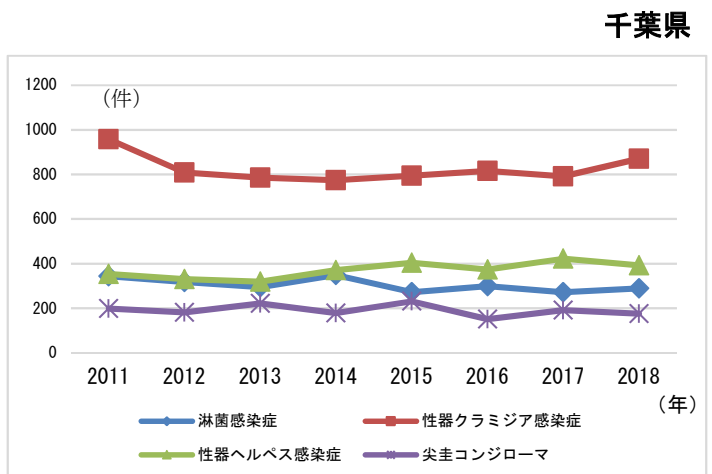
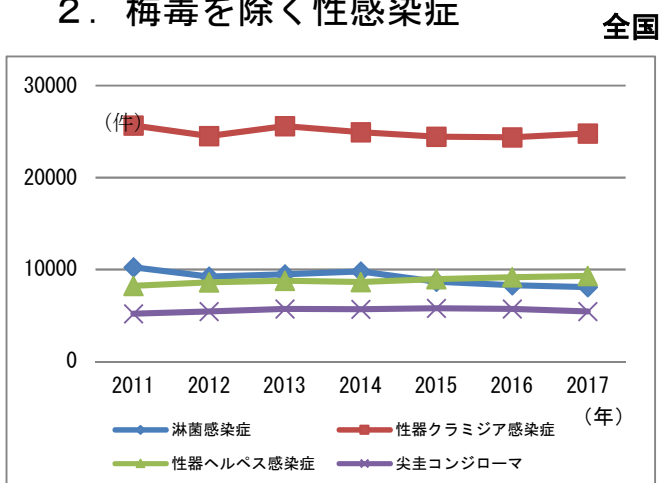
【本県の発生状況】

- ・梅毒の報告数は、2015年（平成27年）以降、大きく増加しており、男性患者の約70%が20歳代から40歳代、女性患者の約80%が20歳代から30歳代である。
- ・近年、梅毒を除く他の4疾患に大きな増加は見られないが、女性患者の約50%は20歳代である。

1. 梅毒



2. 梅毒を除く性感染症



【特徴】

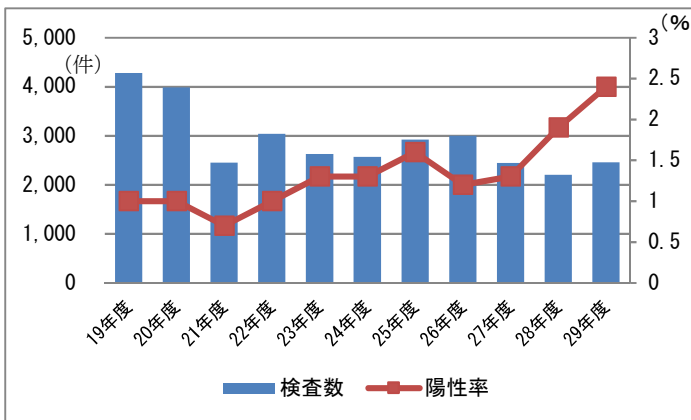
- ・ 性的接触を介して感染するが、早期発見、早期治療開始により重篤化を防ぐことができる。
- ・ 比較的軽い症状にとどまる場合があり、受診が遅れることがある。
- ・ 生殖年齢にある女性が感染した場合、不妊の原因になることがある。
- ・ 母子感染により次世代に影響を及ぼすことがある。
- ・ 性感染症に罹患している者は、HIV 感染リスクが高まる。

【県の対応】

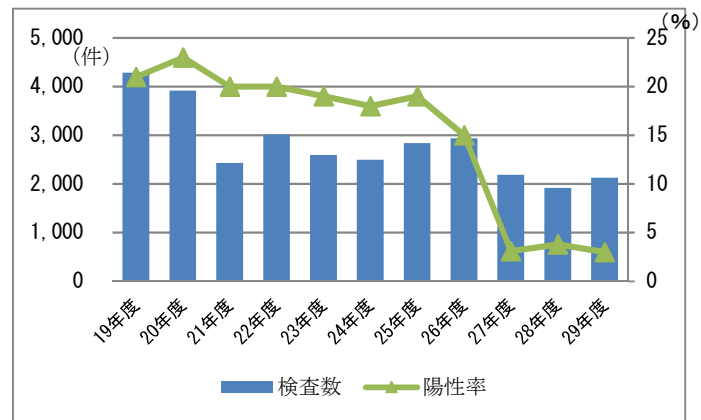
- ・ HIV と性感染症の正しい知識の啓発
- ・ HIV・梅毒・クラミジアの検査機会の提供

（参考）健康福祉センター（県型保健所）の検査実績

梅毒



クラミジア



※平成 27 年度以降、血清抗体検査から尿中抗原検査に変更

HIV

